

Coffee break



H30. 6. 4 (月)

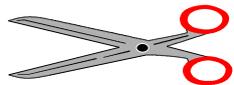
桶売小学校長 本名 武



光輝放つために 研がれる 研ぐ



研修主任を中心に、「学校の教育課題解決」のための現職教育への取組等ありがとうございます。
学校の課題解決、また、子どもたちの「分かった！できた！」につながる日々の授業の充実のために「やってよかった！」と言い合える実のある「現職教育」を積み重ねていきましょう。そのことが、子どもと共に、私たちの日々の職業人としての喜び・楽しさ・やりがい、教職人生の充実につながるものと思います。



さて、「研修」の「研」は、「研(と)ぐ」「研(みが)く」と読みます。研がれることは、多少の痛みを伴うものです。寝ずに展開案を考え、作成した指導案や発問。事後研などでバツサリと斬られるとへこんでしまいますね。

しかし、刀も研がなければ名刀になり得ません。宝石も研かなければ、光のない石のままです。私たちは、研がれた分だけ「スパッと切れ、キラリと光る」ことができます。そのことに真摯に向き合うことが、「子どもたちが勉強を、先生を好きになる。保護者が信頼を寄せる。」ことにつながります。本気でぶち当たって、むしろ、たくさん研がれる研修にしていきたいと思います。

そのときに、忘れてはならないことは、研ぐ「砥石」の方も、多少の痛みを感じ、研いた分だけ、身が細るといふこと。ズバリ指摘されたことを、むしろ、「私のために、言いにくいことを伝えてくれて、ありがとう」の気持ちで受け止めてみましょう。受け止める気持ちやその姿勢があるとき、互いが光輝を共有できる研修の場になります。たくさんの光輝を放つ研修にしていきたいと思います。

「互恵的な学び」につなげるための条件・設定は



複式指導の間接指導時に、いかに子どもたちに力をつけることができるかが課題の一つになっています。自力解決したことを互いに伝え合い、多様な考えや見方に気づいたり、相手の考えを自分の言葉で相手に伝えたり・・・、様々な方法で「学び合い」に発展させている姿が見られます。

「学び合い」で注意しなくてはいけないのが、「学び合い」が「教え合い」になっていないか。つまり、単に、知っている子が知らない子へ教える構図になっていないかということです。これが、算数なら算数で、1年間続いたらどうでしょう。教える子は、新しく得るものがない状態で、教えられる側は、ずっと屈辱に耐える1年になります。

「学び合い」には、「互恵的な学び」と「みんなでできるようになるぞ！誰一人として置いていかないぞ！」という担任の強い覚悟と子どもたちの意識、学級の親和的・支持的風土が必要になってきます。

この「互恵的な学び」とは、どんなことか。どのような準備、条件の場合に成り立つのか。それは、教科の本質・特質からするとどのようによいのか・・・等々。主体的・対話的で深い学びを目指すこれからの教育に対しても重要な部分になることと考えます。諸々含めて、みんなで、やりがいのある研修にしていきたいと思います。